

のような教育を受けて図書の内容が多少とも分る人が当るようになる迄は、必要な文献を教官自身が書架から取り出すのでないと、研究・教育の能率低下を免れ難い事は明白である。然し他方、ベテラン司書には、行政上のランクとは別に、能力ランクを設けて、給与の面でも仕事の面でも、相応の礼遇を与える事を考えるべきであろう。(教養部教授)

## ——— 会 議

### 図 書 館 商 議 会 専 門 委 員 会

第6回：昭和45年5月27日(水) 第7回：昭和45年6月24日(水)

#### 〔第6回〕 テーマ：部局図書館のあり方について

前回に引きつづき、部局図書館のあり方について検討したが、部局図書館のあり方も、結局は京都大学全体の図書館システムの中でとらえるべきだということから、事務部より、京都大学のライブラリ・システムに関する試案が出され、それについて討議された。

この試案では、京都大学の全図書館を、中央図書館と専門図書館および学習図書館の3つにわけ、専門図書館の機能は、現在の部局図書館が担当するが、ただ現在のままで担当するのではなく、可能なばあいは、専門分野の近いものは、部局のわくを越えてまとめることも必要であることが指摘された。

しかし、部局図書館が専門図書館の機能を受持つというばあいは、中央図書館は具体的にどのような機能を果すべきかが問題となり、次回はさらに、中央図書館の機能を検討することになった。

#### 〔第7回〕 テーマ：中央図書館のあり方について

前回の討論により、中央図書館の果す役割について、さらに詳細に分析された案が、事務部より提出され、それを中心に討論が行なわれた。

前回の案では、中央図書館の役割として、㉓. 事務センター、㉔. 情報センター、㉕. 教養センター、㉖. 保存センターの4つがあげられ、学習図書館的機能が除かれていたが、今回はそれをさらに若干訂正して、㉗. 管理センター、㉘. 情報センター、㉙. 学習・教養センター、㉚. 保存センターの4つの機能を持つとする案が提出された。

ここでとくに論議が集中したのは、中央図書館が学習図書館的機能を持つべきかどうかという点であったが、この問題については、今後さらに検討を続けることになった。

### 大 学 図 書 館 改 革 問 題 懇 談 会

第7回：昭和45年5月8日(金) 第8回：昭和45年5月22日(金)

第9回：昭和45年6月5日(金) 第10回：昭和45年6月19日(金)

#### 〔第7・8回〕 テーマ：学部改革と学部図書室との関係について

主として、学部図書室が、今後の学部改革——大学改革にどのようにかかわるのか、現状はどこが不都合なのかということが、各学部よりの報告を中心に話し合われた。多くの学部では、教育と研究の改革が語られる際に、まだ図書館(室)が重要な問題として捉えられていないこと、例えば、学部の改革について比較的早くから討論されてきたといわれる理学部においてさえも、学部学生が三つの系に分けられることが討議されながら、学生の学習にたちまち密接な関係をもつはずの図書室が、その変化にどう応じてゆくのかという点は、十分